

令和 7 年度実施 市民提案型協働事業 新規提案

事業名	多頭飼育崩壊等の不適切飼育防止の取り組み事業
提案団体名	WAN' S LIFE 湘南里親 NPO 法人平塚のら猫を減らす会
事業目的・概要	ペットの不適切飼育を抑制、防止するために、支援が必要な飼い主への予防啓発活動、福祉行政や関係機関との情報交換による横連携の強化、不適切飼育事例が発生した際の一時保護などの有事対応を実施します。 協働事業によって、動物愛護や環境衛生の分野のみならず、福祉分野と連携を構築することで、ペットのみならず飼い主への必要な支援につなげ、地域にとって安心安全な生活環境の提供を目指します。
事業担当課	環境保全課
査定額（市支出額）	870,200円
審査会からの意見・助言	・本事業を通じて、環境保全課と庁内の他の関係福祉部局の協働が進むことを期待しております。 ・本事業の「有事の際の対応」は、今後も民間団体が負担し続けていくことには無理があると思います。先々「行政の狭間」を埋める何らかの支援や制度が必要でしょう。 ・上記をふまえて、本事業の団体側の役割としては「予防」をメインに注力できる状況になることが望ましいと思います。 ・勉強会を企画されていますが、この事業単独のテーマで勉強会を行うより地区公民館で行われる既存の会議に相乗りして行う方が、地域住民に対して本事業の趣旨が届き、理解を得るには有効だと思います。 ・問題の根底は、社会的な孤立にあるので、多頭飼育の改善ではなく、地域との関係の回復であるということを明確にしてほしいです。自治会、民生委員・児童委員にこの点が、明確に伝わるのが重要です。福祉担当課や社会福祉協議会と十分に打ち合わせをして、地域生活課題として捉えることが重要ではないかと思います。 ・7月の事前ヒアリング時に比べて、事業概要・計画がより具体的になってきており、実行性が高まった点を評価します。また、2年間、様々な地域で定期的に勉強会を開催しながら周知の努力を行い、この課題に対して根本的な解決を図っていこうという熱意も強く感じられました。ただ、保護活動をしながら地域の会議等への出席や各地区での定期的な勉強会の実施はかなり大変なのではないかという懸念もあります。 ・地域との連携はすぐに実現できるものでもなく、勉強会に限らず様々な機会をとらえて、根気よく啓発活動を続けていく必要があると思います。飼い主との接点がある医療・福祉はじめ生活全般に係る様々な関係機関の方々とも連携、協力をお願いしながら事業を進めていってください。

令和7年度実施 市民提案型協働事業 新規提案

事業名	市立学校教職員へのリトミックの周知普及と活用支援事業
提案団体名	あいあいリトミック
事業目的・概要	共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育を進める中で、“豊かな感性や自由な表現力を育成し、音楽で五感と筋肉の感覚を使うことで心と身体の調和を目指す教育法”であるリトミックの教職員への周知普及と活用支援を目的に、児童体験型教職員向け研修会を実施します。 研修会をとおして、リトミックの活用が、教職員の学習指導方法の多様化の一助となることや、次世代を支える子どもたちの感性を育成する機会の一端となることを目指します。
事業担当課	教育研究所 子ども教育相談センター
査定額（市支出額）	28,500円
審査会からの意見・助言	・初年度は現場の先生方のニーズを丁寧に聞くことに注力されることを期待します。記録としての動画はあっても良いと思いますが、研修ツールとしての動画はニーズをふまえて、次年度じっくり時間をとって制作してください。 ・「実験」の目的は活用を促進するための現場のニーズをできるだけ掴むこと、先生方の反応と意欲を具体的に言語化して次のステップにつなげる材料とすること、だと思います。 ・人件費が計上されていないことが気になります。打ち合わせにしても専門性を必要とするならば、正当な対価を提示する姿勢が団体の運営を継続するためにも大事だと思います。 ・次年度以降かもしれませんが、ぜひ申請額を増やしてください。 ・これまでのプレゼンを通して、団体のみなさんが、リトミックで子どもたちの豊かな感性を育み心身ともに健やかに成長していくことを支えたい、と熱く強い思いを抱いて日々活動していらっしゃることに心を動かされました。 ・良いこと、楽しいことは、口コミで広がります。情報へのアクセスの良さもポイントです。リトミックに関心のある、あるいはちょっと気になっている先生方に届く情報発信、授業での実践事例や効果が納得できる客観的なデータ（授業に取り入れてみた先生方の声など含めて）の紹介、自分もやってみたいと思ったときにすぐに体験できる機会の提供（研修会の他に、団体が行っている通常活動の見学会や教え方のポイントがわかるワークショップなど先生が気軽に参加できる場を設定してみる）など、この事業が次につながるように、将来的にはホームページ上に先生向けの授業活用サポートページもあるとよいのではないかと思います。 ・先生方が実際に何に困っていてどんなことに期待を寄せているのか、現場の先生方のニーズに寄り添って事業を進めていってください。